

## 第34回環境保全・公害防止研究発表会の概要

### 大分県衛生環境研究センター

環境省、全国環境研協議会及び大分県の三者共催による第34回環境保全・公害防止研究発表会が、平成19年11月7日(水)及び8日(木)に、大分市のコンパルホールで開催されました。

全国環境研協議会の会員から31題の演題応募があり、その内容を基に、化学物質(4題)、大気(15題)、水質(8題)、生物(4題)の4セッションに分類して開催しました。

第1日目は、主催者のあいさつ、続いて特別講演及び研究発表が行われました。第2日目は引き続き研究発表が行われました。2日間で会員、行政機関等から延べ約230名の参加があり、成功裡に終了しました。

#### 1. 開 会

開会に当たり、今回の環境保全・公害防止研究発表会会長である大分県衛生環境研究センターの

梅田所長から開会のあいさつがありました。

#### 2. 主催者あいさつ

##### ○環境省のあいさつ

(環境省総合環境政策局環境研究技術室長  
立川 裕隆 氏)

本日は御多忙の中、本研究発表会に全国各地から大勢の皆様にお集まりいただき、誠にありがとうございます。

本研究発表会は、地方公共団体の環境研究所の職員の皆様による環境保全・公害防止研究の成果を発表する場を設けるとともに、国と地方公共団体、あるいは地方公共団体相互の連携を図ることを目的として昭和49年から毎年開催され、今回で34回目を迎えることとなりました。これもひとえに、本日お集まりの皆様、関係者の御尽力の賜物であり、重ねてお礼申し上げます。



環境省 立川裕隆 環境研究技術室長



全国環境研協議会 高橋正弘会長



大分県 安東雅範 生活環境部審議監

## 第 34 回環境保全・公害防止研究発表会日程表

平成19年 11月7日(月)	大分市コンパルホール(3階多目的ホール)	
	○開会(13:30~13:45) 開会のあいさつ 大分県衛生環境研究センター所長 梅田 和秀 主催者あいさつ 環境省環境研究技術室長 立川 裕隆 全国環境研協議会会長 高橋 正弘 大分県生活環境部審議監 安東 雅範  ○特別講演(13:50~15:00) 演 題 「土壌環境行政の現状と課題」 講 師 坂川 勉(環境省水・大気環境局土壌環境課長) 座 長 高橋 正弘(全国環境研協議会会長(宮城県保健環境センター所長))  ○研究発表(15:10~16:30) ○化学物質	
平成19年 11月8日(火)	研 究 発 表	
	A 会場 (コンパルホール1階文化ホール)	B 会場 (コンパルホール3階多目的ホール)
	○大気Ⅰ(9:30~10:50)	○水質Ⅰ(9:30~10:50)
	○大気Ⅱ(11:00~12:20) (昼食・休憩)	○水質Ⅱ(11:00~12:20) (昼食・休憩)
	○大気Ⅲ(13:30~14:50)	○生 物(13:30~14:50)
○大気Ⅳ(15:00~16:00)		
○閉会 A 会場(16:10~16:20) 閉会のあいさつ 環境省環境研究技術室 室長補佐 高見 晃二 次期開催県あいさつ 広島県立総合技術研究所保健環境センター 次長 高垣 和子		

さて、本年6月には、「21世紀環境立国戦略」を閣議決定し、新しい経済成長のエンジンとなり、「環境立国日本」につながっていくとしています。この戦略には、優れた環境・エネルギー技術などの我が国の強みを活かした日本モデルを世界に発信することを掲げ、創造的な技術革新による環境問題への対応が、における研究・技術開発の目指すべき方向につきましても、昨年3月に閣議決定されました「第3期科学技術基本計画」、また、環境省としては、昨年3月に中央環境審議会の答申を得ました「環境研究・環境技術開発の推進戦略」により、環境分野の研究・技術開発を総合的かつ計画的に推進するための戦略を示したところ

でございます。それら中におきましては、地方環境研究所が中核となって、地域社会と連携した環境研究・技術開発等や、地域住民や環境行政上のニーズを背景とした産学官連携を推進するとしております。

今後は、これらの計画などに従いまして環境政策、あるいは研究・技術開発を着実に進めていきたいと考えており、当技術室としましても、競争的研究資金である環境技術開発等推進費に、地域の独自性・特性を活かした研究開発の地域枠を設けております。また、公害防止等試験研究費においても「地域密着型環境研究」を引き続き実施し、地方環境研究所と関係府省の試験研究機関との共

同研究を始めとする産学官連携を推進してまいりたいと存じます。さらにいくつかの地方環境研究所に参加を頂いて本年より実施している、産学官連携によるモデル事業も着実に実施していく所存であります。

地域における環境行政を支える科学的・技術的な中核組織である地方環境研究所の役割が今後ますます期待される所であり、今後とも、全国環境研協議会及び会員機関の皆様と連携を図りながら、環境研究・技術開発の一層の推進に取り組んでまいり所存でございますので、更なる御尽力をお願いいたします。

最後になりましたが、本研究発表会は、日頃交流する機会の少ない地方公共団体の環境研究所の研究者が一同に会する機会でございますので、研究成果の発表に止まらず、情報交換・意見交換の場としても大いに活用していただきますようお願いいたしますとともに、開催にあたり御尽力を賜りました大分県及び全国環境研協議会の関係者の皆様に厚くお礼を申し上げます。

#### ○全国環境研協議会のあいさつ

(会長 高橋 正弘 氏(宮城県保健環境センター 所長))

第34回研究発表会を開催したところ、多数の皆様方にお集まりいただきましてありがとうございます。

また、開催にあたりいろいろとご尽力いただきました環境省環境研究技術室並びに開催県であります大分県衛生環境研究センターの皆様方に感謝を申し上げます。

さて昨今、地球温暖化などの環境問題が今後に向けての深刻な問題になっており、福田首相の政権公約でも、洞爺湖サミットに向け「環境立国政策の推進」ということをあげております。地球温暖化の影響も、まず地方の自然(海、川、生態系、大気)にその兆候や異常が現れるといわれており、地方環境研究所の重要な役割の一つである大気、水質などの環境モニタリングや関連する調査研究が益々重要になってくると思われま。

一方、地方環境研究所を取り巻く状況は、逼迫している地方財政の状況、団塊世代の大量退職、そういう中で人員の確保や技術の伝承をどう

やっていくかなど、地方環境研究所の置かれた立場は大変厳しいものがあり、殆どの地方環境研究所で組織や業務内容の見直しを迫られております。そのような厳しい状況の中ですが、地方環境研究所が持っている大きな財産はフィールドを持っていることと、その中で第一線で活躍している研究者の皆様方の力この2つが大きな財産です。

本日から明日にかけての研究発表の演題を見ますと、それぞれの地域特有の問題について調査解析され一定の成果をあげられ今回発表されるものと思います。どうか自分に関連する分野について情報収集され、その分野のスペシャリストを目指して今後ご活躍いただきたいと思ひます。

#### ○大分県のあいさつ

(生活環境部審議監 安東 雅範 氏)

本日は全国各地から環境分野の研究者の皆様へここ大分までお越しいただき、開催県といたしまして心から歓迎申し上げます。また、日頃からご指導いただいております環境省水・大気環境局土壌環境課長 坂川勉様にお越しいただき、ご講演いただけることに心から感謝申し上げます。

全国環境研協議会が、環境省の指導のもとで、本研究発表会を主催し、幅広い環境問題について数多くの調査・研究の業績をあげ、環境保全対策の推進に御尽力いただいておりますことに心から感謝申し上げます。

さて、今日の環境問題についてみますと、自然の持つ復元力を超える環境への負荷により、様々な問題が生じており、国内だけでなく国境を越える広域的な環境問題へと拡大しております。環境分野の研究におきましても、これまでの地域環境に根ざした様ざまな調査・研究に加え、地球温暖化対策や資源の有効利用あるいは光化学オキシダントなどの新たな研究テーマが浮上してきております。このため、これまでの環境科学をベースに更に高度な情報処理技術や幅広い見識が必要となっており、今後益々関係する研究機関との連携や交流が重要になることと思ひます。

本県では、昭和49年度にオキシダントの要綱を定めて以来、今年の5月9日に初めて光化学オキシダントの注意報を発令しました。九州各県にお

いても、4月から5月にかけて、北部九州の広範囲で注意報が発令されたところであります。この問題は、九州地方知事会において取り組むこととしており、本県におきましても、国境を越えた広域的なこれらの環境問題に対して国立環境研究所などと共同で一層調査・研究を進めていく必要があると考えております。

また、昨今、これまでの地域環境に根ざした領域だけでなく、県民ニーズ、行政ニーズにそった新たな課題について、環境研究機関においても、より効率的、効果的な調査・研究が求められているところであります。せっかくの機会ですので、本研究発表会を契機として、お互いの交流を深め、調査・研究が更に発展していくことを期待いたしております。

### 3. 特別講演

環境省水・大気環境局土壌環境課長の坂川勉氏により「土壌環境行政の現状と課題」について特別講演が行われました。概要は特集として後に掲載しております。

### 4. 研究発表

2日間にわたり、31の演題について、30名の方から以下のとおり研究発表が行われました。以下にその概要を示します。

#### (1) 第1日目(コンパルホール3階多目的ホール)

##### ○化学物質 15:10~16:30

座長：松井 利夫(福井県衛生環境研究センター)

1A1-1 川崎市における地下水及び公共用水域中の化学物質の実態調査

井上 法和ほか(川崎市公害研究所)

1A1-2 キレート樹脂を用いた温泉水中微量元素の定量

齊藤 由倫ほか(群馬県衛生環境研究所)

1A1-3 イボニシに関する有機スズ化合物の影響  
浦 伸孝ほか(長崎県環境保健研究センター)

1A1-4 高品質霜降り豚肉生産を目的としたバレイショ発酵飼料中のグリコアルカロイド含量  
西川 徹ほか(長崎県環境保健研究センター)

#### (2) 第2日目(A会場：コンパルホール1階文化ホール)

##### ○大気Ⅰ 9:30~10:50

座長：多田納 力(島根県保健環境科学研究所)

2A1-1 浅間山噴煙による二酸化硫黄濃度上昇事例  
中込 和徳ほか(長野県環境保全研究所)

2A1-2 愛知県における平成19年6月下旬のSPM高濃度について

富田 孝子ほか(愛知県環境調査センター)

2A1-3 大気中ヒ素の高濃度事象調査事例(第1報)

杉山 広和ほか(岡山県環境保健センター)

2A1-4 大気中ヒ素の高濃度事象調査事例(第2報)

杉山 広和ほか(岡山県環境保健センター)



##### ○大気Ⅱ 11:00~12:20

座長：石井 康一郎

(助)東京都環境整備公社東京都環境科学研究所)

2A2-1 平成19年6月4日におけるオキシダントの高濃度事例について

河村 秀一ほか(京都府保健環境研究所)

2A2-2 富山県におけるオキシダント高濃度の特徴  
近藤 隆之ほか(富山県環境科学センター)

2A2-3 愛媛県の東予地域における光化学オキシダント濃度について

泉 喜子ほか(愛媛県立衛生環境研究所)

2A2-4 浮遊粒子状物質自動測定機のメーカー差について

木立 博ほか(宮城県保健環境センター)

##### ○大気Ⅲ 13:30~14:50

座長：杉山 広和(岡山県環境保健センター)

2A3-1 環境省「はなこさん」の花粉情報に基づく花粉飛散の挙動解析

多田納 力ほか(島根県保健環境科学研究所)

2A3-2 位相差・分散顕微鏡による石綿分析の有効性

池澤 正幸ほか(高知県環境研究センター)  
2A3-3 宮城県におけるディーゼル発電施設排出  
ガス実態調査及び環境影響調査

小泉 俊一ほか(宮城県保健環境センター)  
2A3-4 東京都区部におけるヒートアイランドの  
実態と対策効果予測  
石井 康一郎ほか  
(助)東京都環境整備公社東京都環境科学研究所)

○大 気 IV 15:00~16:00

座 長：富田 孝子(愛知県環境調査センター)  
2A4-1 茨城県における降水中の微量金属元素に  
関する調査

星野 博史ほか(茨城県霞ヶ浦環境科学センター)  
2A4-2 排ガス中のダイオキシン類の測定装置に  
おける JIS I 形と JIS II 形の比較

前川 智則ほか(大阪府環境農林水産総合研究所)  
2A4-3 バイオエタノール混合ガソリン使用時の  
自動車排ガス試験結果について

畑瀬 繁和ほか(大阪府環境農林水産総合研究所)

(2) 第 2 日目 (B 会場：コンパルホール 3 階多目的ホール)

○水 質 I 9:30~10:50

座長：下濃 義弘(山口県環境保健センター)  
2B1-1 LC/MS を用いた河川水中のテトラプロモ  
ビスフェノール A 及びそのメチル体の定量  
松井 利夫ほか(福井県衛生環境研究センター)

2B1-2 八ヶ岳南麓の湧水群保全の取り組み  
三分一湧水の水質常時監視について  
清水 源治ほか(山梨県衛生公害研究所)

2B1-3 海水の COD 分析についての一考察  
鷹野 洋ほか(岡山県環境保健センター)

2B1-4 ろ紙吸光法による河川水質評価手法の検  
討について

金並 和重ほか(大分県衛生環境研究センター)

○水 質 II 11:00~12:20

座長：清水 源治(山梨県衛生公害研究所)  
2B2-1 安倍川の濁りの原因とその影響について  
増元 英人ほか(静岡県環境衛生科学研究所)

2B2-2 大植湾における汚濁特性  
伊藤 朋子ほか(岩手県環境保健研究センター)

2B2-3 産業廃棄物最終処分場浸出水のバイオ  
アッセイに関する研究

笹島 武司ほか(富山県環境科学センター)

2B2-4 宮城県における一般廃棄物焼却灰の発生

状況及び塩類・重金属等濃度調査

柳 茂ほか(宮城県保健環境センター)

○生 物 13:30~14:50

座 長：鷹野 洋(岡山県環境保健センター)  
2B3-1 里地里山における生物多様性の保全に関  
するモニタリング調査方法の開発

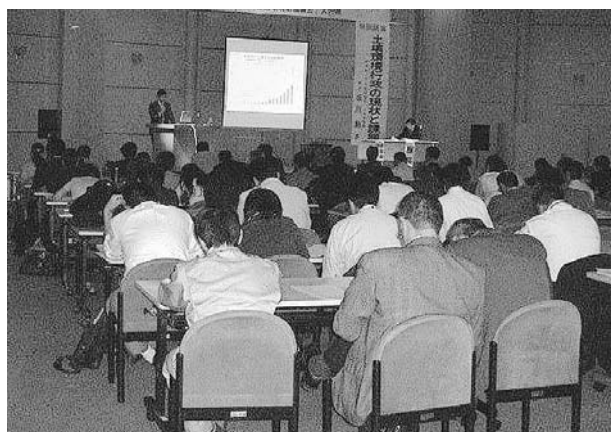
井戸 浩之ほか(愛媛県立衛生環境研究所)  
2B3-2 都市におけるセミ相の変化とその要因  
高倉 耕一ほか(大阪市立環境科学研究所)

2B3-3 水生生物を教材とした環境学習について  
下濃 義弘ほか(山口県環境保健センター)

2B3-4 科学技術振興を目指した出前講座の現状  
と課題

加藤 進ほか

(三重県科学技術振興センター保健環境研究部)



## 5. 閉 会

閉会に当たり、主催者を代表して環境省から閉会のあいさつが、また、次期開催県としてのあいさつがありました。その内容は、次のとおりでした。

### ○主催者の閉会あいさつ

(環境省環境総合政策局環境研究技術室室長補佐  
高見 晃二氏)

2日間に渡る研究発表会では、地方公共団体の環境研究所の皆様から、各分野における最新の調査・研究の成果が発表され、実りある議論が行われたことと思います。これもひとえに、各発表者の御努力と座長の労の賜物と存じます。国及び地方公共団体の環境保全に関する研究の総合的な推進を図るという本研究発表会の目的は、十分達成

されたのではないかと考えております。

改めまして、地方公共団体の環境研究所におきまして、研究の最前線で活躍される皆様の日頃の御努力に対し、心から敬意を表しますとともに、本発表会の開催準備に御尽力いただきました大分県及び全国環境研協議会の関係者の皆様に厚くお礼申し上げます。

環境省といたしましては、「第3期科学技術基本計画」及び中環審答申である「環境研究・環境技術開発の推進戦略」で示されるとおり、地域における環境研究・技術開発の推進が、これら施策上の重要な柱の一つであると考えております。地方公共団体の環境研究所におかれても、地域の環境行政を支える科学的・技術的な基盤組織として、一層の体制整備等に努めていただき、その得意分野に配慮しつつ、人材を活用して、地域に密着した環境研究を率先して展開されることが重要と考えております。

その意味でも、地方公共団体の環境研究所の研究者が一同に会する貴重な機会であるこの研究発表会を、今後、一層充実させていきたいと考えておりますので、次期開催県である広島県及び全国環境研協議会の関係者の皆様には、引き続き御協力くださいますようお願い申し上げます。

### ○次期開催県のあいさつ

#### (広島県立総合技術研究所保健環境センター 次長 高垣 和子 氏)

まず、第34回環境保全・公害防止研究発表会が、盛大に行われたことに対しお祝い申し上げます。2日間行われましたが、地域の環境を担っている地方環境研究所ならではの発表であったと思われ、感銘を深くしたところでございます。

また、発表会を主催していただきました環境省、全国環境研協議会、さらにこの発表会を運営していただきました大分県の関係者の皆様に厚くお礼を申し上げます。

ところで、広島県は県立の研究機関が8つありますが、この4月に工業系が3つ、農業系が4つそれに保健環境研究所を併せて8つの機関が総合技術研究所として1つに統合されました。この中で、横断的、融合的な研究をするという仕組みが作られているところです。ともすると、産業振興が全面に出がちな状況ではございますが、この中で強く感じますことは、環境というキーワードは、すべての分野における重要なキーワードであると再認識しており、今後、連携の道を探っていきたいと考えております。

さて、前置きが長くなりましたが、来年度、第35回環境保全・公害防止研究発表会は、広島県が担当させていただくことになりました。準備はまだこれからでございますが、関係者の皆様にいろいろ教えて頂きながら、また、全国の会員の皆様のご協力をいただきながら、役割を果たしていきたいと考えています。